

◆◆ 目 次 ◆◆

事業の背景・目的	1
1 事業の背景	1
2 目的	2
事業の内容	3
1 事業全体の内容	3
2 連携団体と実行委員会の設置について	3
3 ネットワーク作りの為の ICT 支援活動の内容	4
4 地域ネットワーク普及の為の小冊子の作成と配布の内容	8
事業の実績	8
1 ネットワーク作りの為の ICT 支援活動の実績	8
2 地域ネットワーク普及の為の小冊子の作成と配布の実績	13
事業の成果について	15
1 事業全体の成果	15
2 ネットワーク作りの為の ICT 支援活動の成果	16
3 地域ネットワーク普及の為の小冊子の作成と配布の成果	17
4 事業全体の成果の考察	18
見えてきた課題とこれからの取り組み	19
1 課題	19
2 今後の取り組み	19

1 事業の背景

現在、地方自治体の福祉施策においては地域移行が進み、多くの高齢者・障害者の方々が地域で暮らすようになってきています。

しかし、外出が困難な重度身体障害者や足腰に不自由さを抱える高齢者の孤立が進む中、支援するサービスがあっても手が行き届かない、それを必要とする方々に情報が行き届かないなど、社会参加する為の環境がまだ十分に整っていません。

[孤立が進む原因]

- ① 若い人たちの県外移住や少子化の影響などから高齢者の独居世帯が増え、県内の多くの地域で過疎化が進んでいる。
- ② 県内の公共交通機関は利便性が良くない為、運転免許証を所有していない高齢者や障害者の外出は家族や移動支援事業者に頼ることが多く、気軽な外出が困難になっている。
- ③ 障害者の潜在能力を活かす機会が少なく、次第に気力、体力ともに低下し地域とのかかわりが希薄になる。
- ④ 高齢者や障害者が社会参加したいと思っても、希望に合った支援やサービスの情報を得られず、次第に引きこもってしまう。
- ⑤ ベッドや特殊な車いすでの生活をしている重度障害者は、外出も身体的な負担になる為、毎日を自室で過ごさなければならない。
- ⑥ 同居する家族の高齢化などから、外出する機会が少なくなる。

高齢者・障害者にとっての ICT

現在、ICT 機器を利用した各種サービスが普及していますが、多くの高齢者・障害者の方々は思うように利用できません。そのうえ、多くの方々が ICT 機器を利用して交流しているにもかかわらず、ここでも高齢者・障害者の方々は取り残されつつあると思われま

[高齢者・障害者が ICT 機器を利用できない、使いこなせない原因]

- ① ICT 機器を手にしたこともなく、初めから利用できないと思ってしまう。
- ② ICT 機器に興味を持っていても、操作に不安がある。
- ③ ウイルスや詐欺に対する不安がある。
- ④ ICT 機器の便利な使い方を習得できない。
- ⑤ 心身の障害から、ICT 機器を使えないと思いついてしまう。
- ⑥ ICT 機器の使い方を丁寧に教えてもらえる機会に恵まれない。
- ⑦ 家族や介助者が忙しく、これ以上負担を掛けたくないと思ってしまう。
- ⑧ 各々の障害に応じた使い方を知る機会に恵まれない。

2 目的

(1) 全体

高齢者・障害者の方々がICT機器を利用して容易に他者と交流ができる環境を作り、孤立を防止することを目的としました。

ICT機器を利用してコミュニケーションの輪を広げることで、自らが持っている可能性を見出しながら社会参加の意欲を持っていただくとともに、生活の利便性を高め地域社会との繋がりの中で、充実した生活が送れることを目指します。

(2) ネットワーク作りの為のICT支援の目的

孤立防止の為の支援が必要な方に対して、積極的に働きかけて支援を実現させるために、当事者を含むネットワーク（各々の生活スタイルに合ったネットワーク）作りを行ないます。

その為には、ICTの活用法などを当事者の方々にもより深く知っていただく必要があるので、ICTを活用したコミュニケーション方法や年齢や障害などに合ったICT機器の選択や使用方法を学ぶ機会を提供して、当事者個々のスキルアップを目指します。

(3) 地域ネットワーク普及の為の小冊子の作成と配布の目的

高齢者・障害者の方々の孤立を防止する手段として、ICT機器を利用したネットワーク作りの有効性を、当事者や地域の方々に周知する為の小冊子を作成し、普及啓発活動に使用します。

事業の内容

1 事業全体の内容

高齢者・障害者の方々の孤立防止の手段として、ICT 機器を利活用したネットワークを構築する為に、訪問・遠隔・学習会による支援と各々の生活スタイルに合ったネットワーク作りに関する小冊子の作成・配布を行ないます。

2 連携団体と実行委員会の設置について

本事業は、実行委員会を設けて事業実施にかかる課題の把握、整理、検討及び事業の進捗管理を連携して実施しました。

実行委員会は、本法人より委員長、各連携団体から委員を1名選出、本法人事務局より1名参加して計7名で構成し、事業を進める上で必要な情報（個人情報を含む）の管理、支援者の派遣と実施についての管理、助成金の収支の管理、報告書の作成は、助成金申請団体である本法人（NPO 法人バーチャル工房やまなし）が行ないます。

連携団体と連携内容

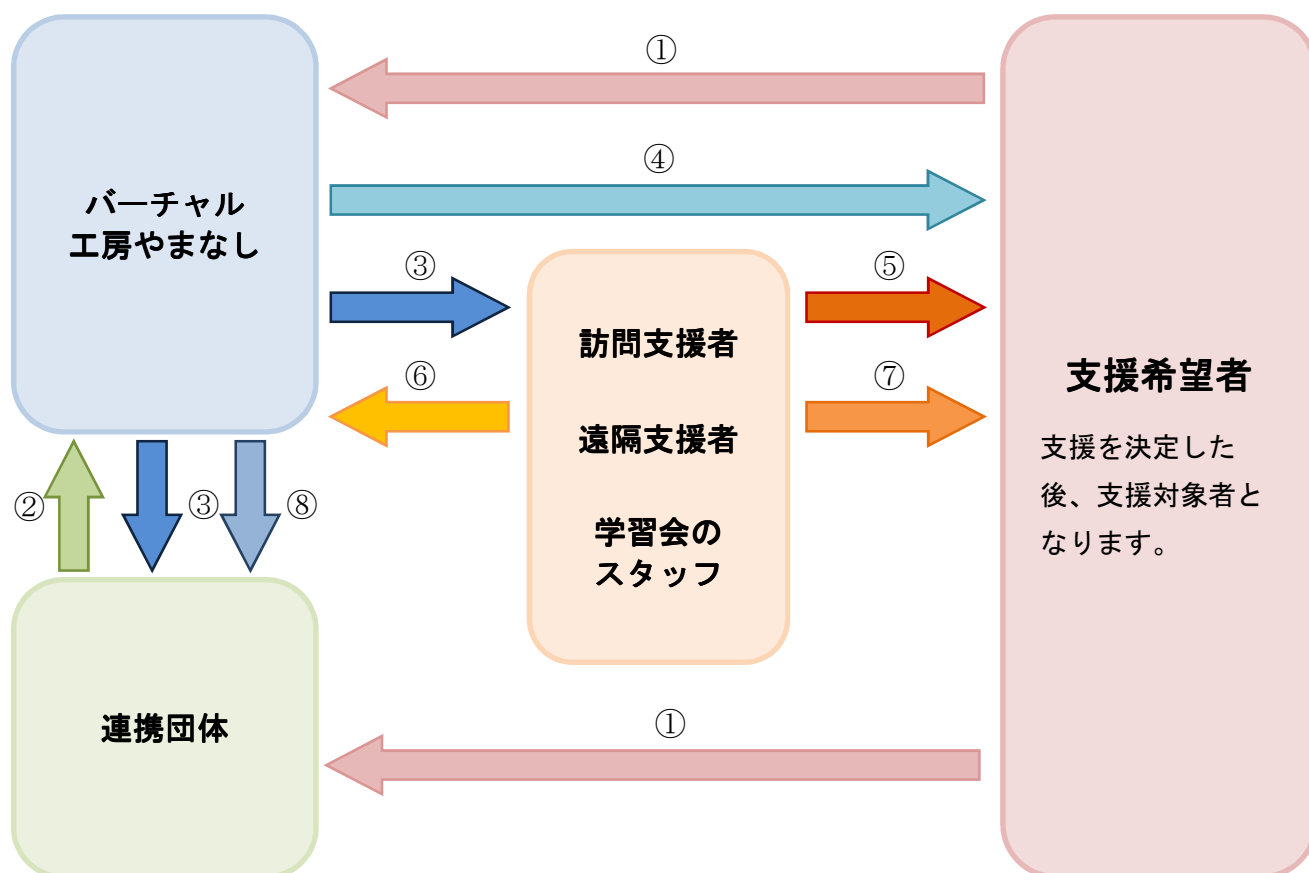
連携団体名	所在地・活動範囲	連携内容
一般社団法人 日本筋ジストロフィー協会 山梨支部	甲府市 山梨県全域	実行委員会委員 障害者（筋ジストロフィー）の ニーズの把握 支援希望者の受け付け
非営利任意団体 南アルプス市障害者福祉会	南アルプス市 峡西地域	実行委員会委員 高齢者・障害者のニーズの把握 支援希望者の受け付け
非営利任意団体 甲州市視覚障害者福祉会	甲州市 峡東地域	実行委員会委員 高齢者・障害者のニーズの把握 支援希望者の受け付け
特定非営利活動法人 楽しく笑って人生を過ごす 山梨手話の会	甲斐市 峡中地域	実行委員会委員 高齢者・障害者のニーズの把握 支援希望者の受け付け
非営利任意団体在宅障害者 外出支援サークル五っ湖	富士河口湖町 富士五湖地域	実行委員会委員 高齢者・障害者のニーズの把握 支援希望者の受け付け

3 ネットワーク作りの為の ICT 支援活動の内容

(1) 支援の流れ

本法人と連携団体が把握したニーズを基に、支援希望者からの申し込みを受け付けた後、その内容を検討した上で対象者を決定し、日時の調整を行ない支援します。

- ① 本法人と連携団体が支援希望者を受け付けます。
- ② 申し込みを受けた連携団体は、「支援受付票」を作成して本法人へ提出します。
- ③ 本法人は「支援受付票」の内容を検討し、日時調整と内容の確認をした後、支援者に依頼します。
- ④ 支援対象者に支援を実施する日程を伝えます。
- ⑤ 支援を実施します。(訪問、遠隔、学習会の開催)
- ⑥ 支援者は本法人に、支援を実施した日時・内容・支援対象者の様子などを報告書に明記して提出します。
- ⑦ 必要に応じて継続して支援します。
- ⑧ 支援後は、支援実施内容などを連携団体にも報告します。
- ⑨ 実施委員会で効果の検証を行ないます。



(2) 訪問支援について

外出する為の移動手段を確保するのが難しい方や、障害に合わせた特殊な仕組みを施した ICT 機器をお使いで代替機がない方などには、直接ご自宅などに出向いて支援を行ないます。

また、視覚に障害をお持ちの方への支援には、視覚に障害がありながらもパソコンを使いこなしている方と晴眼者が一緒に訪問して支援を行ないます。

(3) 遠隔支援について

遠隔による支援は、移動手段が確保できない方、訪問支援を受けるのに抵抗がある方、訪問支援を受けた後にも ICT 機器の操作方法に不安が残る方、スカイプを使用した会話に慣れたい方などを対象に、遠隔支援担当者が本法人の ICT 学習センターから、スカイプを利用して行ないます。

(4) 学習会について

学習会は、主にご自宅への訪問が困難な方や、移動手段が確保でき支援内容が共通している方、手話のサポートを介してグループでの学習を希望している聴覚障害の方々などを対象にして、本法人の ICT 学習センターまたは別会場を設けて支援を行ないます。

広報用パンフレット

独立防止地域ネットワーク構築事業について

この事業は、高齢者・障害者の自立が社会課題となっている現状を踏まえ、高齢者・障害者の皆様が ICT を活用してより多くの人との繋がりをもち、快適でいきいきと生活できる環境づくりを推進し進めることを目的とします。

そのためには、年齢や障害などに遡して ICT の活用方法を当事者の理解にちより深く知っていただく必要があります。よって本事業では、訪問・遠隔による支援を行なうと共に学習会などを開催して、当事者同士のスキルアップを促します。

高齢者・障害者の皆様が ICT を幅広く利用しながら、地域の方や高齢者・障害者を支える方との繋がりを深め、自らが進んで助け合いの社会に参加していただくことを願っています。

※ ICT とは

パソコン等を利用した情報技術に、遠隔コミュニケーションの重要性を加えた言葉で Information and Communication Technology (インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー) の略です。

訪問支援と遠隔支援および学習会について

1. 訪問を希望する日時は、ご相談の上決めます。ご希望に添えない場合もあります。
2. 遠隔支援とは、自宅に訪問させず離れた場所から音声通話を利用して行なう技術支援のことです。希望する日時は、ご相談の上決めます。ご希望に添えない場合もあります。
3. 一度に複数名の方を支援する場合は、学習会を開催いたします。
4. 端末機器・ソフトの販売や、販売のための取立ちはいたしません。
5. 端末機器の修理・整備は行ないません。
6. 端末機器をお持ちでない方は、訪問時に講師が指導いたしますが、貸し出しは行なえません。
7. 予約制になっておりますので、お申し込み・お問い合わせはバーチャル工房やまなし事務局、または各協力団体の担当者にご連絡ください。

協力団体

一般社団法人日本福祉ソフトウェア協会山梨支部
 南アルプス市障害者福祉会
 甲州市障害者福祉会
 甲府市障害者福祉会
 在宅障害者外出支援サークル五っ頂
 NPO 法人楽しく笑って人生を過ごす山梨学塾の会

NPO法人バーチャル工房やまなし

お問い合わせ・お申し込みは、電話・FAX・メールなどにご連絡ください。
 事務局 電話：055-242-2677 / FAX：055-242-2678
 メール info@y-virtual.jp ホームページ <http://www.y-virtual.jp>

バーチャル工房やまなし 検索

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

訪問・遠隔による ICT 学習支援のご案内



NPO法人バーチャル工房やまなし

在宅就業支援団体（厚生労働大臣登録）

ICT を利用してネットワークづくりをしましょう

フェイスブック
 ほかにもおぼつかい
 仲間作り

メール
 新便り

スカイプ
 ほかにもおぼつかい
 情報交換

地域間の
 情報交換

仕事
 他社との
 連携

趣味
 仲間作り

訪問して支援いたします

お住まいまたは、お仕事の場所でお持ちください。講師が訪問して、指導いたします。

ICT 機器の修理などは行いません。

予約制となります。事前にこのお申し込みをさせていただきます。

こんなことで困っていませんか？

リソースの使い方を詳しく知りたい

ICT を使った方法に不安がある。自分のせいでいいからいい

インターネットを上手に活用して、セキュリティが心配

音声通話で支援いたします

ICT 機器を使った音声通話での情報交換。音声通話の利用方法を指導したい方の支援にも対応いたします。

また、空閑時間を確保した上で自分に不安が解消されることも、お気軽に支援を受けることができます。

予約制ですが、お時間をお申し込みください。

支援についての申し込み方法

電話 FAX メール

バーチャル工房やまなしには、各種の問い合わせ窓口があります。

などにご連絡ください。協議の上、講師の希望を受け付けます。

学習会を開催して支援いたします

その他以上のグループでの交換を必要とする場合には、学習会を開催して支援いたします。

また、支援者が限られて参加者が確保できない場合は、支援者だけで学習会を開催する機会もあります。

4 地域ネットワーク普及の為の小冊子の作成と配布の内容

ICT を活用したネットワークの構築が、高齢者・障害者の方々の孤立防止に繋がることを地域の方々に知っていただく為、小冊子「ICT で世界を広げよう」を作成します。

内容は以下のとおりです。

- ① ページ数
全8ページ（表紙含む）
- ② 各ページの内容
1ページ
表紙 「ICT で世界を広げよう」～やりたいを叶える 夢を叶える～
2ページ
自分の生活スタイルに合った地域とのネットワーク作りについて
高齢者・障害者が ICT を利用できない、使いこなせない原因について
3ページ
こんなご希望を持っていませんか？
4～5ページ
ICT を活用した地域ネットワークの姿について
6～7ページ
Skype（スカイプ）の紹介
SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の紹介
8ページ
裏表紙（事業実施団体・協力団体の掲載）
- ③ 音声コードの掲載
視覚障害者の為の音声コードをすべてのページに掲載
- ④ 印刷冊数
500冊

事業の実績

1 ネットワーク作りの為の ICT 支援活動の実績

(1) ICT 支援活動全体の実績

支援対象者 (予定人数 20 名)	高齢者 6 名 (内、障害あり 5 名) 障害者 19 名 合 計 25 名
支援対象者の居住地と 市町村別人数	甲府市 3 名 甲斐市 4 名 甲州市 2 名 山梨市 2 名 富士吉田市 3 名 富士河口湖町 2 名 鳴沢村 1 名 山中湖村 1 名 都留市 1 名 南アルプス市 6 名
スカイプを使った手話通 話体験学習会の参加者	50 名 (聴覚障害者、地域の支援者)
支援回数	訪問支援 支援者 2 名 15 回 (視覚障害者には 2 名で訪問) 支援者 1 名 53 回 合 計 68 回 遠隔支援 合 計 31 回 学習会開催 合 計 10 回
支援担当者数	訪問支援担当者 8 名 ICT 学習センターから遠隔による支援担当者 3 名 学習会支援担当者 6 名 ※担当が複数の者あり
支援者の支援時間	訪問支援 支援者 10 人×3 時間 計 30 時間 支援者 73 人×2 時間 計 146 時間 合 計 176 時間 遠隔支援 支援者 31 人×2 時間 計 62 時間 合 計 62 時間 学 習 会 支援者 10 人×3 時間 計 30 時間 支援者 10 人×2 時間 計 20 時間 支援者 4 人×1 時間 計 4 時間 合 計 54 時間

(2) 訪問支援の実績

訪問支援した事例を下記の表にまとめました。

支援対象者の要望	支援した内容
視力低下に不安があるが、パソコンを利用して家族や周囲の人へ自分の思いを伝えたい。	ワードを使って年賀状・誕生日カード・メッセージカードの作成。
データのバックアップ方法やメディアプレイヤーの設定、音楽の取り込み方法、エクセル操作などを習得したい。	音声ソフトを利用しているので、パソコンの設定を工夫し、容易に音楽を楽しめる方法。
使いやすくする為にパソコンの設定変更や音声ソフトの利用方法を習得したい。	意にそぐわないアップグレードの防止措置、音声ソフトの活用法。
iPhoneをもっと使いやすくしたい。日常利用する表の作成を習得したい。	iPhoneのアップデートと使い方の改善。ワードでの表の作成と入力の方法など。
Windows10 アップグレードによる不具合を改善したい。日常利用する表の作成などを通し、効率の良いショートカットキーの活用を習得したい。	アップグレードによる不具合改善、ワードの表作成と編集、効率の良い操作など。
新規購入されたパソコンの環境設定、音声ソフトなどのインストール操作方法を習得したい。	視覚障害者向けソフトのインストールと、アカウント設定、音声ソフトの不具合の調整と確認など。
新しいパソコンの各種設定と視覚障害者向けソフトのインストール、操作方法を習得したい。	音声ソフトのインストール、古いPCからのデータ移行、Windows7の操作方法など。
視覚障害者向けソフトをより深く習得し、趣味の俳句作成に活用したい。音声図書のダウンロード方法も習得し、仲間との交流の機会を増やしたい。	マイワードの操作方法全般、操作しやすい設定、ファイル削除の方法。音声図書への登録、利用方法など。
ICT機器を使って在宅就労をしたい。精神に障害があるので、心身に負担がかからないペースで支援を受けたい。	ワードの基本操作、年賀状作成、チラシ作成、印刷の方法など。
パソコンの学習機会に恵まれずにいたので、パソコンを使いやすい設定にする支援や、ワードの高度な機能の学習などを受けたい。	OS起動時の不具合修正、マウス設定の変更、ワードによる表作成、はがき作成、効率の良い操作方法の解説など。

支援対象者の要望	支援した内容
普段からパソコンを使用しているが、操作に不都合を感じた時の対処法を知りたい。	プリンターの設定、エクセル操作、e-Tax の操作。
インターネットの不具合などを改善したい。	インターネット接続の不具合復旧、セキュリティーソフトの更新。
新規購入した視覚障害者向けソフトの操作方法を学習して、趣味の幅を更に広げたい。	ネットリーダーのインストール、初期設定、基本操作など。
日常の簡単な計算をパソコンでしたい。OCR ソフトの使用法を知りたい。	パソコンの電卓機能を使った計算、エクセルでの家計簿の付け方、OCR ソフトの使用法など。
ICT 機器を使ったコミュニケーションを、介助者なしで行ないたい。	作業療法士の方と一緒に訪問し、ICT 機器の操作性を体位から判断して改善。 入力代替機器の調整、「伝の心」を使った操作の確認。

※同じ事例がありますので、事例数と支援対象者数は一致しません。

(3) 遠隔支援の実績

遠隔支援した事例を下記の表にまとめました。

支援対象者の要望	支援した内容
パソコンを使いやすい設定にして、もっと ICT 機器を活用したい。	パソコン環境の整備、ウェブマイクの不具合の解消、パソコンの基本操作、不要な表示の削除。
趣味をとおして仲間作りをしたい。	インターネットの利用の方法、視覚障害者用読書機の接続。
ICT 機器を使って在宅就労に就き、もっと多くの人と交わりをもちたい。	ワードの基本操作の習得とポスター・リーフレットなどの作成方法、就労に必要な ICT 機器の知識についての学習。
音声ソフトの利用方法の理解を深め、もっとパソコンを活用して多くの人と交わりたい。	音声ソフトの操作・利用の支援、メール送受信、インターネットの利用、エクセルの活用。

※同じ事例がありますので、事例数と支援対象者数は一致しません。

(4) 学習会の実績

聴覚障害者と高齢者を対象に全 10 回開催し、下記の表にまとめました。

支援対象者の要望 (対象者)	支援した内容	参加 延べ 人数	開催回数 延べ支援 時間
スカイプを利用したい。 (聴覚障害者・高齢者)	スカイプを利用した手話ビデオ通話と複数 カ所での同時手話ビデオ通話の体験。 アプリのダウンロード、アカウント作成の解 説、複数での通話体験など。	56 人	2 回 4 時間
パソコンをもっと生活 の中で活用したい。 (聴覚障害者・高齢者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワード 2010 の文書作成サポート、操作説明。 ・持参された新規購入パソコンの起動、終 了、画面操作についての解説、マウス設 定、演習。 ・マウスの扱い方をゲーム感覚で練習及び 文字入力。 ・ワード描画ツールを使ってロゴ作成。 ・Win8.1 ワード文書入力、編集、文字変換の 応用。 ・所属団体の名簿作成。 ・片手によるかな入力、固定キーを使用した 入力、マウス操作。 ・Windows タブレット PC の文字入力（フリッ ク入力）、ワード文書入力、編集、印刷。 ・タブレットワード文書入力・ウェブカメラ を使ったスカイプのビデオ通話。 ・ワードとエクセルの操作（フォント、文字 ポイント、表作成など） ・生活の中に ICT を取り込む為の、基本的 な質問にも対応。 	22 人	8 回 21 時間



スカイプのビデオ通話を使って
手話での会話を体験



手話で操作説明



2 地域ネットワーク普及の為の小冊子の作成と配布の実績

「ICTで世界を広げよう」は、事業主体である本法人の会員及び協力団体による配布の他、市町村立各施設、社会福祉協議会、障害者福祉協会、山梨県ボランティアセンターなどの施設から配布していただきました。



《 事業の成果について 》

1 事業全体の成果

事業全体の成果を下記の表にまとめました。

生活スタイルに合ったネットワークを作れた。	5人
生活スタイルに合ったネットワークを作るきっかけとなった。	16人
ICT 機器が使いやすくなり、他者と交流しやすくなった。	7人
ICT 機器を使って初めて意思を伝えられるようになった。	2人
他者との交流を含め、ICT 機器の利用の幅が広がった。	22人
ICT 機器を利活用した在宅就労で、社会参加できることが可能になった。	3人
ICT 機器を使ってできる仕事の幅が広がった。	7人
趣味をとおして交流が広がった。	3人
ICT 機器を使って手話で交流できることが分かった。	53人

※支援対象者の中には、複数の成果が得られた方もいましたので、合計人数は本事業支援対象者数よりも多くなっています。

2 ネットワーク作りの為の ICT 支援活動の成果

ICT 支援活動の成果の事例を下記の表にまとめました。

支援前	支援後
視力低下による不安がある。	音声ソフト導入済みのノートパソコンを利用したことで視力の不安が軽減され、自分の思いを伝えることができ、他者との交流が深まった。
データのバックアップ方法やメディアプレイヤーの設定、音楽の取り込み方法、エクセル操作などが思うようにできない。	繰り返しの支援による表作りをとおして、本人自らが、より効率的な操作を検討するなど、意欲的に取り組むようになった。 読み上げソフトの設定内容も改善された。
使いやすいパソコンの設定変更や音声ソフトの利用方法がよく分からない。	音声ソフトの操作方法に対する理解が深まり、安心してパソコンを活用できるようになった。
視覚に障害があり、周りに適切な支援者がいないため iPhone を使いやすくできない。	iPhone アップデートにより音声の質が向上して聞きやすくなり、できることの幅や知識が広がった。
Windows10 アップグレードによる不具合があった。	思うような改善ができなかった。
新規購入したパソコンの環境設定や音声ソフトなどのインストールや操作方法がよく分からない。	支援中にほぼ設定が終了し、読み上げ設定も前機種と同じレベルにできた。 新規購入したパソコンでも、今までのデータを使い、操作練習も安心してできるようになった。
視覚障害者向けソフトの操作に不安がある。	日ごろから視覚障害者向けソフトを活用されているので、ちょっとしたアドバイスで自立した活用ができるようになった。
ICT 機器を利活用して在宅就労に就きたいが、何から始めてよいのか分からない。	ICT 機器を利活用して在宅就労ができる道が開かれた。
パソコンの設定や、ワードのより高度な機能を知りたいが、学習機会に恵まれない。	もともと学習意欲が高く、ワード操作には慣れていたので、更に効率の良い手順を自身で判断し、工夫して作業ができるようになった。
普段からパソコンを使用しているが、操作に不都合を感じた時の対処法が分からない。	不具合への対処法の理解が深まった。

支援前	支援後
インターネットの不具合などが起こったが、視覚障害者向けのソフトでの対応方法がよく分からない。	インターネット接続を復旧することができ、セキュリティソフトの更新作業では、次回更新時必要な事項をパソコン内に保存したことで、将来への不安も払拭できた。
新規購入した視覚障害者向けソフトの操作方法を知り、趣味の幅を更に広げたいが操作方法がよく分からない。	操作方法を習得でき、以前に比べてネット検索に時間をかけず音楽鑑賞や読書ができるようになった。
日常の簡単な計算や、OCR ソフトの使用法を知りたいがよく分からない。	パソコンでの計算機能の操作方法や、エクセルの復習で使い方を習得し、生活に利便性が生まれた。OCR ソフトの操作方法も習得したことで、パソコンの使い方に幅が広がった。
重度の身体障害があり、ICT 機器を使っても、思うように意思の伝達ができない。	体位と操作器具の配置などが確保できたので、介助者にパソコンさえセッティングしてもらえれば、自分でパソコンを操作して意思の伝達ができるようになった。

※同じ事例がありますので、事例数と支援対象者数は一致しません。

3 地域ネットワーク普及の為に小冊子の作成と配布の成果

地域の方々と一緒に高齢者・障害者の孤立防止について考える機会を提供できました。

更に、「ネットワーク作りの為に ICT 支援活動」で支援できなかった高齢者・障害者の方々にも、ICT による生活スタイルに合ったネットワーク作りについて、知っていただく資料になりました。

4 事業全体の成果の考察

パソコンやスマートフォンなどの ICT 機器を使えば気軽に人と交われる時代になりましたが、心身に障害を抱える方、足腰に不自由さを抱えて外出が困難になったご高齢の方などは、思うように ICT 機器を利用できず、人と心を通わす機会が希少になっていると思われます。

本事業で支援希望者の様々な要望に応えましたが、ネットワークが広がり絆を深められた方、ICT 機器が使いやすくなり人と交わりやすくなった方、自らが持っている可能性を見出して社会参加への意欲が高まった方など、その効果は様々です。

しかし、各々の生活スタイルに合ったネットワークを作り、孤立を防止するきっかけを提供できたのではないかと思います。

そして、今回の支援をとおして見えてきた課題を一つひとつ解決しながら、高齢者・障害者の方々が、地域社会の中でより豊かな生活を送っていただけるように、今後も孤立防止に繋がる支援を進めていきたいと思ひます。

《《 見えてきた課題とこれからの取り組み 》》

1 課題

今後、ICTを利用して高齢者・障害者の孤立を防止する為には、より多くの方々を支援できるネットワークを作りながら、以下の課題を解決して行く必要があると思われます。

- ① 支援終了後も継続してサポートする支援者の確保。
- ② 専門性の高い要望に応える知識の習得。
- ③ 支援活動を継続していく資金の調達。
- ④ 学習会会場への移動手段の確保。
- ⑤ 支援を必要とする方の実態とニーズの把握。
- ⑥ 支援活動の拡大。

2 今後の取り組み

連携団体とともに以下の事項に取り組み、ICTを利用した高齢者・障害者の孤立防止についての事業を進めて行きたいと思ひます。

- ① 本事業終了後も支援対象者のニーズを把握し、必要な支援を行なう。
- ② 支援者の育成に努め、ニーズに対応できる体制作りを進める。
- ③ 支援に必要なマンパワーを確保する為、各福祉団体に働き掛け協力を募る。
- ④ 支援活動の内容を充実する為、定期的に検討会を開催する。
- ⑤ 地域に埋もれているニーズを掘り起こしながら賛同者を増やす。

発行者 特定非営利活動法人バーチャル工房やまなし
〒409-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居 55-12
TEL 055-242-2677 FAX 055-242-2678
E-mail info@y-virtual.jp
<http://www.y-virtual.jp/>

発行日 平成 28 年 3 月

**平成 27 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
孤立防止地域ネットワーク構築事業**